

(別紙)

成果の説明書

富澤一弘	経済学部 経済学科
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 科学研究費補助金(基盤研究C 平成23-27年度「近代日仏間生糸・絹織物貿易史の研究ーリヨン絹織物業組合の原史料を中心にー」)によるフランス国立図書館・フランソワ・ミッテラン館(パリ市)の調査</p> <p>報告者は、平成23年9月29日(木) - 10月16日(日)までの16泊18日の史料調査に続き、平成24年6月28日(木) - 7月16日(月)までの17泊、19日の史料調査を実施して、19-20世紀前半の日仏生糸・絹織物貿易に関する仏文史料・原文書等を、16,330枚、複写して帰国している。</p> <p>平成23年度の複写枚数6,000枚余に加えて、この2年度で22,000枚余の複写を、同館で実施したことになる。これらの史料は、わが国にはコレクションとしては、全く存在しておらず一国会図書館にも、他の有名な史料所蔵機関にもみられない一フランス国内の蚕糸業・絹織物業関連の業界紙・誌等であり、フランス側から当該期のシルク貿易史を研究する際の、知られざる最重要史料である。</p> <p>なお平成25年5月22日(水) - 6月5日(水)までの13泊15日、同館に赴き、同様の史料を蒐集することが、既に承認をみている(平成25年3月19日(火)の教授会)。それ故、報告者は、今後とも、本研究を最重点の研究課題として継続・深化させていくつもりであり、さらに平成28年度の史料集刊行、平成29年度の論文集刊行を目指して、孜々として努めていきたい、と考えている。</p> <p>(2) 国内史料所蔵機関における史料調査</p> <p>(1)の研究・調査の補充調査として、個人研究費、および平成24年度「高崎経済大学特別研究奨励金」を活用して、首都圏、ならびに東海 - 西日本エリアにおいて、生糸・絹織物貿易に関する文献蒐集を行っている。これらは、明治 - 昭和前期のシルク産業に関する史料が中心であり、他に紡績、金融に関する文献等も含まれている。平成25年度以降も、これら補充調査を、エリアを拡大しつつ、継続していく予定である。</p> <p>(3) 博士後期課程院生・佐藤雄太氏との共同研究</p> <p>(1)、(2)の研究とは別個に、報告者の日本経済史研究室に在籍する院生と、日本中世史に関する研究を継続して、平成23 - 24年度、以下の論文を公表している(全て査読つき、合計A4で114頁)。同氏は、平成25年度前半、博士論文を提出する予定である。</p> <p>1 富澤一弘・佐藤雄太氏「今川氏の制札の研究」(『高崎経済大学論集』53-4、高崎経済大学経済学会、平成23年4月、15-28頁[14頁])。</p> <p>2 富澤一弘・佐藤雄太氏「織田氏の制札の研究ー信長発給文書を中心にー」(『高崎経済大学論集』54-1、高崎経済大学経済学会、平成23年6月、15-27</p>	

頁[13頁])。

3 富澤一弘・佐藤雄太氏「『加澤記』からみた戦国時代沼田地方の政治情勢」(『高崎経済大学論集』54-2、高崎経済大学経済学会、平成23年9月、1-16頁[16頁])。

4 富澤一弘・佐藤雄太氏「『加澤記』からみた真田氏の自立-外交政策・家臣団統制を中心に-」(『高崎経済大学論集』54-3、高崎経済大学経済学会、平成24年2月、31-47頁[18頁])。

5 富澤一弘・佐藤雄太氏「今川氏の制札の研究-南北朝期を中心に-」(『高崎経済大学論集』55-1、高崎経済大学経済学会、平成24年6月、1-14頁[14頁])。

6 富澤一弘・佐藤雄太氏「足利氏の制札の研究-尊氏・直義文書を中心に-」(『高崎経済大学論集』55-2、高崎経済大学経済学会、平成24年12月、55-68頁[14頁])。

7 富澤一弘・佐藤雄太氏「毛利氏の制札の研究」(『高崎経済大学論集』55-3、高崎経済大学経済学会、平成25年2月、93-105頁[13頁])。

8 富澤一弘・佐藤雄太氏「大友氏の制札の研究」(『高崎経済大学論集』55-4、高崎経済大学経済学会、平成25年3月、1-14頁[14頁])。

2 その他の事項

- (1) 平成20-21年度に続いて、平成24-25年度、高崎経済大学経済学会の会長を務めている。任期は、合計4年度となる。『高崎経済大学論集』の年度4回の刊行を中心に、会務に従事している。